

資源・素材学会  
会報誌別刷

# 季刊 資源と素材

[新年号] **2019**

MMIJ QUARTERLY, Vol.4 (2019), No.1

一般社団法人 資源・素材学会

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41

TEL: 03-3402-0541 FAX: 03-3403-1776

E-mail: [info@mmij.or.jp](mailto:info@mmij.or.jp) URL: <http://www.mmij.or.jp/>

若手

研究者&技術者

自己紹介

第

67

回



安達 謙 Ken ADACHI

正会員 京都大学 工学研究科 材料工学専攻

京都大学工学研究科博士課程3年の安達と申します。資源・素材学会はこれまでに数回発表させていただいています。参加を重ねるごとに、懇親会に参加される方々の繋がりや濃さを感じております。

在籍している博士課程では、邑瀬教授の研究室にて電解精製やめっきに関する研究に取り組んでいます。「何をしている研究室なのか」と聞かれると少し答えに窮してしまうほど、取り組んでいるテーマが

人それぞれで異なっていて、銅電解や溶液中の錯体種の解析に取り組んでいる人もいれば、イオン液体やナノサイズのばねの合成を研究している人もいるといった具合です。一見バラバラのように見えますが、これらは電気化学にまつわるもので、電気化学が対象にする分野の幅広さが感じられます。

私が主に取り組んでいるテーマは、「金属電析のための電気分解しにくい水溶液」の開発です。水に塩を溶かすと一部の水分子が塩由来のイオンに配位しますが、溶解度の大きい塩を多量に溶かした水溶液では、ほとんど全ての水分子をイオンに配位させ安定化することができます。これを利用して、金属電析浴に適切な塩を多量に加えて浴の電気化学的な安定性を強化することで、高い電流効率で金属電析が行える電解浴を開発しようと日々トライ&エラーを繰り返しています。

現在は観光名所の多い京都に住んでいるため、遠くから（時折海外からも）京都観光に来る知り合いの案内をする機会が増えてきました。その度に、自分が京都や日本の文化をあまり理解していないことに気付かされるため、最近では名所に足を運んで案内のシミュレーションやネタ集めをするのが趣味になっています。京都はやはり紅葉の季節が綺麗だと思のですが、このところ海外観光客が特に増えてのんびり紅葉狩りすることが難しくなってきたため、季節外れの緑の楓でも「秋はもっと綺麗だろうな」と想像で楽しめるようになってきました。

もし、近いうちに京都観光を考えられる場合は気に留めていただきたいのですが、京都の観光名所の1つである清水寺が2021年まで大規模な改修を行っていて、「清水の舞台」を満身に眺めることができません。先日私も知らずにお客さんを連れて行ってがっかりさせていただきました。代わりと言っては何ですが、2014年に造られた将軍塚青龍殿というスポットがおすすめでして、清水の舞台に引けを取らない良い眺めで京都盆地を一望できます。まだ知名度が高くないので人混みを避けて大パノラマを楽しむ事ができるので、機会があれば足を運ばれてはいかがでしょうか。

以上、取り留めのない自己紹介になりましたが、学会で目に留めていただける成果を出せるよう精進しますので、今後とも宜しく願いいたします。



将軍塚青龍殿の舞台 (出典：KANSAI ART BEAT)

本企画のコーディネーター：三宅正男 (正会員 京都大学大学院エネルギー科学研究科)

このコーナーでは、おおむね博士課程学生以上、もしくは、入社3年目以降の“自称”若手研究者・技術者による自己紹介記事を掲載しています。原稿は、ポートレート写真1枚、図1枚、文字数1,100字程度が目安です。執筆希望者は、下記まで、メールをください。皆さんの夢、野心、決意をお待ちしております。

なお、掲載された方が会員の場合、次の年会費支払いが免除されます。また、非会員の場合、入会金および年会費の支払いは免除され、会員資格が1年間付与されます。【連絡先】E-mail: miyake.masao.4e@kyoto-u.ac.jp